

福島県民をモルモットに  
疫学研究をおこなった  
山下俊一の正体

2013年2月23日

広瀬隆

昨日、2013年2月22日、決死の福島原発告訴団による東京地検包囲行動には、福島県民がバス3台を連ねて東京にやってきてくださり、そこに全国から多くの告訴人と支援の方が集まってくださり、午後4時という時刻にもかかわらず、1000人近い方が結集してくださいました。

そこで東京地検に対して呼びかけられた「東電に対してただちに強制捜査に踏み切れ」という、みなさんの言葉の数々は、悲痛な叫びでした。

そのあと、東京電力本店ビル前に移動して、「社長出てこい」の怒号の中、福島県民がまた、早急の補償・賠償を求める要求を突きつけました。

そして福島県民の方たちは、さらに首相官邸前デモに合流し、デモ参加者に支援を訴えて、再びバスに乗って、深夜に帰宅されました。

本当にご苦労さまでした。ありがとうございます。

下記サイトに当日の録画がありますのでご覧ください。

[http://www.youtube.com/watch?v=C\\_GoDnH1VB4&feature=youtu.be](http://www.youtube.com/watch?v=C_GoDnH1VB4&feature=youtu.be)

そこで聞いた話は  
とても  
おそろしいものでした。

かの山下俊一は、福島県民をモルモットにして、疫学研究をおこなっていた、というのです。

昨年の毎日新聞2012年8月26日——クローズアップ2012:福島・子供の甲状腺検査 山下俊一・福島医大副学長(甲状腺検査責任者)の話で、

<http://mainichi.jp/opinion/news/20120826ddm003040168000c.html>

——検査の目的は。 と尋ねられ

県民の健康増進のための医療サービスで、決して調査研究ではない。

と答えていた。

山下俊一・神谷研二が所属する福島県立医科大学の倫理委員会の記録によれば、2011年8月24日に申請され、9月22日に承認された研究課題は「県民健康管理調査の一環としての福島県居住小児に対する甲状腺検査」となっている。



許可申請書

23年8月24日提出

福島県立医科大学 学長 様

下記研究計画の実施等に関し、許可を頂きたく必要書類一式を添えて申請します。

研究課題名 県民健康管理調査の一環としての福島県居住小児に対する甲状腺検査

【研究責任者】

所属 福島県立医科大学  
職・氏名 副学長 阿部正文  
内線電話 2180

所属長 承認印

受付番号  
1318

(3) 分担研究者

所属	職	氏名	学内講習会の受講
福島県立医科大学	副学長	山下俊一	<input type="checkbox"/>
福島県立医科大学	副学長	神谷研二	<input type="checkbox"/>
医学部公衆衛生学講座	教授	安村誠司	<input checked="" type="checkbox"/>
医学部小児科学講座	教授	細矢光亮	<input checked="" type="checkbox"/>
医学部耳鼻咽喉科学講座	教授	大森孝一	<input checked="" type="checkbox"/>
医学部腎臓高血圧・糖尿病・内分泌代謝内科学講座	教授	渡辺毅	<input checked="" type="checkbox"/>
医学部感染制御・臨床検査医学講座	教授	金光敬二	<input checked="" type="checkbox"/>
医学部医療工学講座	准教授	福島俊彦	<input checked="" type="checkbox"/>

そして、福島県立医科大学倫理委員会における

2011年9月13日の会議録

<http://www.fmu.ac.jp/univ/kenkyu/rinri/pdf/kaigi/230913.pdf>

および2011年12月13日の会議録

<http://www.fmu.ac.jp/univ/kenkyu/rinri/pdf/kaigi/231213.pdf>

によれば ↓ これらの研究は・・・



	研究等種別	一般研究				
	審議の結果、研究計画書等について指摘のあった事項を修正し、修正結果について委員長及び副委員長の確認を受けることを条件に、承認することとした。					
受付番号	所属名		研究（診療）責任者			
	福島県立医科大学		職	副学長	名	阿部正文
	研究（診療） 課題名	東京電力福島第一原子力発電所事故に伴う避難地区住民等の健康管理のための質問紙調査				
	研究等種別	疫学研究				
	審議の結果、研究計画書等について指摘のあった事項を修正し、修正結果について委員長及び副委員長の確認を受けることを条件に、承認することとした。					
受付番号	所属名		研究（診療）責任者			
	福島県立医科大学		職	副学長	名	阿部正文
	研究（診療） 課題名	県民健康管理調査の一環としての福島県居住小児に対する甲状腺検査				
	研究等種別	疫学研究				
	審議の結果、研究計画書等について指摘のあった事項を修正し、修正結果について委員長及び副委員長の確認を受けることを条件に、承認することとした。					

		との関連
	研究等種別	疫学研究
	審議の結果、承認された。	
受付番号	所属名	研究（診療）責任者
	福島県立医科大学	職 副学長 名 阿部正文
1316	研究（診療） 課題名	東京電力福島第一原子力発電所事故に伴う避難地区住民等の健康管理のための質問紙調査
	研究等種別	疫学研究
	審議の結果、承認された。	
受付番号	所属名	研究（診療）責任者
	福島県立医科大学	職 副学長 名 阿部正文
1319	研究（診療） 課題名	県民健康管理調査の一環としての福島県居住者に対する健康診査
	研究等種別	疫学研究
	審議の結果、承認された。	
受付番号	所属名	研究（診療）責任者
	内視鏡診療部	職 部長 名 小原勝敏
	研究（診療）	内視鏡診療部

○東京電力福島第一原子力発電所事故に伴う避難地区住民等の健康管理のための質問紙調査

○県民健康管理調査の一環としての福島県居住小児に対する甲状腺検査

○県民健康管理調査の一環としての福島県居住者に対する健康診査

これらはいずれも——研究等種別 **疫学**  
**研究**、として承認されたことが明記されている。

疫学研究であるなら、当然、甲状腺検査の説明会で、この検査の目的が疫学研究であるという説明がなされるべきであろう。

つまり、医療行為や治験などの対象者（患者や被験者）が、治療や臨床試験・治験の内容についてよく説明を受け、十分理解した上で、対象者が自らの自由意思に基づいて医療従事者と合意すること、それが医学常識であり、それを医学用語でインフォームド・コンセントという。ところが福島県民調査では、県民は一切そうした説明を受けていない。

説明を受けずに調査されている状態は、一方的にモルモット扱いされて調べられている、と言っても過言ではない。

福島県「県民健康管理調査」検討委員会委員名簿

平成23年5月27日

○ 委 員

氏 名	現 職
明 石 真 言	独立行政法人放射線医学総合研究所理事
児 玉 和 紀	財団法人放射線影響研究所主席研究員
神 谷 研 二	国立大学法人広島大学原爆放射線医科学研究所所長・教授 (福島県放射線健康リスク管理アドバイザー)
山 下 俊 一	国立大学法人長崎大学医歯薬学総合研究科長 (福島県放射線健康リスク管理アドバイザー)
星 北 斗	社団法人福島県医師会常任理事
阿 部 正 文	公立大学法人福島県立医科大学理事兼副学長 (医学部病理病態診断学講座主任 (教授))
安 村 誠 司	公立大学法人福島県立医科大学医学部 公衆衛生学講座主任 (教授)
阿久津 文 作	福島県保健福祉部長

福島県民の被曝調査をしているのは……

そして福島県立医科大学  
学副学長・山下俊一、神  
谷研二の手足となつて、  
「放射能安全論」を展開し  
てきたのが、鈴木眞一……

2012年4月26日に、彼らの汚れた手によって調査され、発表された「福島県民健康管理調査」報告によれば、13市町村の3万8000人の子供（平均年齢10歳）の**35%**に甲状腺の「嚢胞」（のうほう）が発見された。

嚢胞とは、球状の上皮に覆われて、内部に病的な液体がたまった状態の病変を指し、癌化する可能性がある。

さらに2012年9月11日発表の第8回「福島県民健康調査」報告では、「嚢胞」が発見された子供の割合は**43%**に跳ね上がった。

女子は男子より発生率が高く、6～10歳の女子の53.8%、11～15歳の女子の54.3%に「嚢胞」が発見された。加えて、二次検査を終えた38人の中から初めて、**1人が甲状腺癌と診断された。**



そして今月…

朝日新聞

2013年2月14日

## 福島の子3人 甲状腺がん

### 4万人調査 「被曝影響考えにくい」

福島県は13日、東京電力 時に18歳以下だった3人が  
福島第一原発事故の発生当 甲状腺がんを診断され、7

2013年2月13日、福島県は東京電力福島第一原発事故の発生当時に18歳以下だった3人が甲状腺癌と診断され、7人に癌の疑い(ほぼ癌と確定)があると発表した。

計10人の平均年齢は15歳。男性3人、女性7人。3人は手術で癌を摘出、通常の日常生活を送っているという。

人に疑いがあると発表された。チェルノブイリ事故では、被曝から最低4〜5年後に甲状腺がんが発生しており、県は「総合的に判断して被曝の影響は考えにくい」と説明している。▼科  
学面||被曝、解明の途上  
県は事故当時、18歳以下だった約18万人のうち、約3万8千人の甲状腺の超音波検査結果をまとめた。計10人の平均年齢は15歳、男性は3人で女性が7人。腫瘍の直径は平均15mm。確定診断された3人は全員、進行がゆっくりしたタイプの早期だった。今回の調査対象は、飯館村や浪江町など避難区域などの子どもたちだ。3人は手術でがんを摘

出、通常の日常生活を送っているという。  
甲状腺がんの大半は進行が遅く、生存率も高い。これまで、子どもの甲状腺がんの発生頻度は100万人に1〜2人程度とみられていた。今回、それより高い頻度で見つかった。福島県立医大の鈴木真一教授は「今回のような精度の高い超音波検査で大勢の子どもを対象にした調査は前例がなく、比較はできない」と説明した。成人の超音波検査では3・5%に甲状腺がんが見つかったとの報告もあるという。

小児甲状腺癌は通常であれば100万人に1人だが、二次検査した151人の子供から10人もの小児甲状腺癌(確定と“ほぼ確定”の合計)が発見された。

3万8000人に3人の異常な割合である。

また6～10歳女子の**55.6%**、11～15歳女子の**58.2%**に甲状腺の異変(嚢胞または結節)が発見された。この率も昨年を上回る。

山下俊一は、かく福島県民の  
疫学データを手に入れて、古巣  
の長崎大学に戻る!!

疫学研究においてはインフォー  
ムド・コンセントは不必要なの  
か？